

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 58 号 (H28.7.3)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 九州地域、特に南部九州で大雨が降りましたが、当該地域の皆様には被害のなかったことをお祈りするばかりです。気温も高くなり、熱中症も注意が必要な季節となりました。どうぞご自愛ください。

ザンビアでは雨が全く降らないようで、気候の違いを感じますね。

皆様のご支援をいただき、これからもマラリア対策や疾病予防等、辺地医療の支援に取り組んでいきたいと考えています。

今回は、山元香代子先生の 6 月における現地ザンビアでの活動報告、以前ニュースに掲載できなかった巡回診療等に同行した医学生からの報告をお伝えします。

賛助会費納入のお願いと寄附受領証明書の送付について

・認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業年度は 1 月から 12 月です。今年も早半年が過ぎました。どうぞ賛助会費 (個人一口 5000 円、団体一口 10000 円) 及びご寄附 (金額は問いません) のご協力をよろしくお願い致します。

・入金を確認しました際には、日高からその旨メールを差し上げます。また当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄付 (賛助会費含む) いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書 (賛助会費も寄附金と同様税控除の対象) をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 (info@ormz.or.jp) までご連絡ください。

・web 口座をお持ちの方はインターネットからも振込みができます。各銀行等にお尋ねください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウヲシエンスルカイ

現地活動報告 (山元香代子先生)

みなさま

いかがおすごしでしょうか。日本は梅雨に入り、雨が多いことと思います。こちらはいいお天気が続いて、雨は一滴も降りません。大統領・国会議員の選挙が 8 月に予定され、その影響か、停電の時間が 1 日 4 時間ぐらいになりました。断水もやや改善されてきています。

5 月 24 日、ルアノの巡回診療は、患者数 96 名。マラリア患者は 35 名。前回の診療からの 2 週間コミュニティヘルスワーカーは 286 名の患者を診察し、うち 218 名がマラリア陽性でした。本当にコミュニティヘルスワーカーのがんばりには頭が下がります。きちんと薬は内服しているのに、短期間に何度もマラリアにかかる子供が何人もみられ、根本的な蚊の対策をしないといけないと考えました。日本人の医師とその奥さま、2 人の日本人医学生が同行し、いろいろとお手伝いしていただきました。ありがとうございました。

6月1日、ムワンタヤの巡回診療は、患者数118名、マラリア患者も19名と減少するも、前回の診療からの1か月間コミュニティヘルスワーカーは226名の患者を診察し、うち153名がマラリア陽性でした。

6月3日、前回患者数が多かったのでニャンカンガの巡回診療を実施。患者数111名、マラリア患者は49名。前回の診療からの約2週間コミュニティヘルスワーカーは231名の患者を診察し、うち196名がマラリア陽性でした。建物の床にはセメントが塗られ、窓ガラスも取り付けられていましたが、4-5人のコミュニティメンバーしかおらず、患者ノートは順番に整理されておらず、なかなか診療を始めることができませんでした。

そのため6月10日のコミュニティメンバーに対するセミナーでは、マラリアなどの病気の説明以外に、コミュニティメンバーの仕事の分担を明確にし、患者ノートの整理、ノートの記載の仕方など一つ一つ確認していきました。そして、15日の巡回診療、ほとんどのコミュニティメンバーが我々の到着時には準備を始めていて、患者ノートは整理されていて、スムーズに仕事を進めることができました。うれしくてたまりませんでした。この状況が続いてくれることを願っています。患者数128名、マラリア患者は41名。前回の診療からの12日間コミュニティヘルスワーカーは98名の患者を診察し、うち86名がマラリア陽性でした。ニャンカンガでもルアノと同じように短期間に何度もマラリアにかかる子供が何人もみられました。

6月8日、ルアノの巡回診療は、患者数70名。マラリア患者は26名。前回の診療からの2週間コミュニティヘルスワーカーは174名の患者を診察し、うち131名がマラリア陽性でした。マラリア患者数は減少傾向にあります。サバニ村に多くの患者がみられました。そのため、コミュニティメンバーと話し合い、6月17日にサバニ村とその奥のトンプエ村で蚊の殺虫剤噴霧を実施することを決めました。

蚊の殺虫剤噴霧は、保健省が推奨していますが、一部の地域で実施されているだけです。家の壁や天井にくまなく殺虫剤を噴霧します。そして最低でも約4か月間効果があると言われています。そのためにできるだけ家の中を空っぽにしなくてははいけません。コミュニティメンバーに1戸1戸訪問し、その旨を伝えてくれるようお願いしました。噴霧するための圧縮ポンプはチサンバ郡の郡保健局から4台借りることができました。また郡保健局が訓練した2人の噴霧実施者を紹介してもらいました。コミュニティメンバーから2人を助手としてお願いしました。ルサカの肥料などを扱っている店で、殺虫剤も取り寄せてもらい手に入れました。噴霧実施者が身に着けるゴーグル、マスク、ヘルメット、作業着、手袋、ゴム長靴なども準備しました(写真①)。

6月17日、4時にルサカを出発し、途中チサンバで2人の噴霧実施者をひろい、8時半にはルアノに到着。そこからまずトンプエ村に向かいました。途中川が完全に干上がり、砂地になっている所で、タイヤがとられ進めなくなり(写真②)、もう1台のランクルでけん引したりして、ようやく10時半過ぎにトンプエの井戸に着きました。1本の



ポンプに殺虫剤 250ml を入れ、水 10L で希釈しますので、水が大量に必要です。井戸がなかったら、噴霧の計画は立てられませんでした。それぞれの家は、家の中を空っぽにして待っていてくれました。一つの家が 1-3 戸の家で生活しています。噴霧それ自体は家が小さいので、3-5 分で終わります。しかし、隣の家が遠く、車も入ることができず、歩いて回らなくてははいけません(写真③)。トンプエ村の 7 家族分 (10 戸) が終了したのが 14 時前で、サパニ村は無理ではないかと不安でしょうがありませんでした。そのうえタイヤがパンクしてしまいました。サパニ村まで約 1 時間かかり、15 時前から噴霧を開始しました。コミュニティメンバーの 2 人がどこに家があって、どういう順番で噴霧すればいいかよくわかっていて、また、それぞれの家がきちんと準備してくれていて、とても順調に噴霧することができました。25 家族分 (44 戸) が終了したのが、18 時前でした。噴霧後 3 時間は家の中に入れないので、16 時過ぎには終了しようと考えていましたが、遅くなってしまいました。噴霧の間に 7 人の具合の悪い患者が来て、うち 5 人がマラリア陽性で、抗マラリア薬を処方しました。チサンバ郡保健局のタンクに残った殺虫剤を廃棄し、ルサカに到着したのは 24 時前でした。



写真③

初めての試みでしたので、うまくいくのかとても不安でした。終了時刻は少し遅くなりましたが、噴霧がきちんと実施できたのは、ひとえにコミュニティメンバーの事前の情報伝達の徹底と家族がきちんと準備してくれたおかげです。しかし、多くの家を訪ねてみて、草で囲った家(写真④)に住んでいる人が多く、隙間だらけです。これでは蚊が次々に家の中に入っていきます。これからトンプエと



写真④

サパニでマラリア患者がどのように推移していくか、しっかりとみていく予定です。そして効果が確認できれば、雨季の前にルアノ全村とニャンカンガでも殺虫剤噴霧を実施したいと考えています。

今回はルアノのコミュニティメンバー(写真⑤)の仕事ぶりにとても感激しました。ほんとうに彼らがんばって協力してくれるので、活動が続けられるのだと強く感じ、私ももっとしっかりやっとうと気持ちを新たにしました。そして何よりも多くの方々の支援のおかげです。心からお礼申し上げます。私は 6 月末には帰国し、3 か月間日本の病院で仕事をします。私の不在の間も活動は継続されます。



写真⑤

みなさま、どうぞお元気でお過ごし下さい。

ザンビア研修報告 巡回診療に同行して

三重大学医学部 6 年 青山慎平さんからの報告

海外支援に携わっていらっしゃる方の診療の実際の場面に立ち合わせていただくというのは今回実習をザンビアという地区にした一つの動機だったので非常にありがたく、貴重な経験となりました。

今回のルワノという地区の移動診療、マラリアなどに関してのバンドによる啓蒙活動に同行させてい

ただいて印象深かったのは、住民の意識の違いが大きく、非常に多様な住民がいるということでした。今回の診療に際して治療費や診察に対してお金は全くとっていないにもかかわらず、蚊帳が無料でないことに関して文句を言う人もいれば、町を医療の届かないところから2週間に1度とはいえ届くところにしてくれ、町に発展をもたらしてくれた人と感謝している人もいた。受けている教育の水準や身なり、栄養状態などもバラバラで、英語が話せない人もいるような多様で大きな集団に対して一定の医療を非常に少数で提供していらっしゃる先生方の姿勢には感銘を受け、日本の医師と患者の関係性がいかに重要であるかということ改めて認識しました。また先進国に生まれた幸運に関して非常に感謝しました。

しかし200人ほどの患者が一日で医療を求め訪れており、その中に重症から軽症までいて自分が見逃せば2週間後まで医療が受けられず、最悪の場合死ぬこともあるという状況で先生方が朝から6時過ぎまで休憩もなく診察をされている現場は想像以上に過酷で、いかに難しいことかということを実感しました。また物やお金だけばらまいたら解決するようなものではなく、管理が丁寧に行われないと何の役にも立たないということが感じられました。ルサカ市内にはソーシャルワーカーや保健師のような役割をこなす人がヘルスセンターの中にいましたが、そのような管理を行う者は、ルワノ地区には存在する雰囲気はなく、問題を抱えながら最低限の医療を保証していくという形にならざるを得ないということも問題の一つとして感じられました。

自分は実際に海外で医療をするということは現在は考えていませんが、このような状況で苦しんでいる患者、苦勞しながら診察なさっている医療従事者がいるということを知れたことは、非常に貴重な経験であり、将来的に医師として医療に携わるときに、わずかでも自分にできることをやっていきたいとします。



以上

◎どうぞ今後ともご支援のほどよろしく申し上げます